

陸上自衛隊 航空学校



先駆けの碑

明野飛行場の歴史を引き継ぐものであり、(旧軍時代は荒鷲の塔と呼ばれていた。)昭和37年に新設され、航空操縦士練武の場の象徴的存在となっている。名盤には「衆に先んじて礎を作る」(陸幕長)とあり、校風「吾れ陸上航空の先駆けとなり礎石となる」へとつながる。

明野駐屯地周辺

明野駐屯地といえば「伊勢神宮」。駐屯地から4kmほどのところにあります。今年は、20年に一度の式年遷宮(神社の正殿を新たに建て御神体を遷すこと)です。明野駐屯地の隊員も課業外に支援します。今回は「お白石持行事」に参加。一人ひとりが白布に「お白石」を包み、真新しい遷宮後は立ち入ることの出来ない御正殿の近くで「お白石」を奉獻する行事です。航空機は、神宮の上を避けて飛行します。

陸上自衛隊航空学校 明野本校全貌



学校長メッセージ

航空学校長 陸将補 大西裕文

航空学校は、「吾れ陸上航空の先駆となり礎石となる」を校風として、航空戦士を育成しています。先駆とは、その進むべき方向を示し導くことであり、そのために全職員がそれぞれの職位において自ら学び、自ら考え、そして自ら行動しています。陸上作戦を取り巻く環境は常に変化しており、陸上航空も全力でその変化に対応する必要があります。また、礎石とは、学校自体が土台となるだけでなく、明日の自衛隊を支えていく隊員を育成することも含まれており、そのために「魂を伝える教育」を重視しています。知識や技術以上に、どんなに過酷な環境におかれても任務を完遂するという強い心、つまり魂が最も大事であると考えているからです。航空学校はこれからもしたたかでありながら航空戦士を育成して参ります。

沿革

- 大正8年 陸軍飛行学校開設(所沢)
- 大正9年 陸軍飛行学校射撃班(明野)
- 大正10年 明野分校開設
- 大正13年 明野飛行学校に昇格
- 昭和27年 航空学校開校(所沢)
- 昭和30年 明野に移駐
- 昭和34年 霞ヶ浦分校開校
- 昭和48年 宇都宮分校開校
- 昭和52年 教育支援飛行隊創設
- 昭和54年 A H I S 装備
- 昭和61年 C H 4 7 J 装備
- 平成11年 U H 6 0 J A 装備
- 平成12年 O H I 1 装備
- 平成17年 A H 6 4 D 装備
- 平成23年 T H 4 8 0 B 装備

整備部

幹部に対する運用・操縦教育及び調査研究等に対応するため、各航空機の整備はもとより、航空機搭載無線機とアビオニクス等の整備が任務。運用・教育・調査・研究等の要求に対応できる信頼性の高い品質管理に努めている。



格納庫で整備されているTH-480B

研究部



教育訓練・運用上の要求に対応し、航空科職種の利用に係る調査研究の他、航空科部隊の教育訓練等に反映する教範及び訓練資料等の作成を行っている。

教育支援飛行隊

学校教育及び富士学校等を行う幹部学生に対する教育訓練の支援と研究部が行う調査研究の支援の他、富士総合火力演習等の支援を行う。また、突発的な震災・水害・林野火災等の災害発生時には、航空偵察・救援物資の空輸・空中消火等の災害派遣を行う。



実弾搭載。慎重に、慎重に！



着艦直前UH-60



確保された降着地域に次々と降着



警戒しながら相互前進する警戒隊員



降着後のFARP隊長と学生研修

所有航空機

- OH-1 観測ヘリコプター
- UH-1J 多用途ヘリコプター
- UH-60JA 多用途ヘリコプター
- AH-1S 対戦車ヘリコプター
- AH-64D 戦闘ヘリコプター
- CH-47JA 輸送ヘリコプター
- TH-480B 練習ヘリコプター

他 明野駐屯地所在部隊

- 第5対戦車ヘリコプター隊
- 第10飛行隊
- 飛行実験隊
- 中部方面管制気象隊第1派遣隊
- 第107全般支援大隊整備中隊明野派遣隊

第1教育部

航空科部隊の初級・中堅幹部に対し、師団の作戦・戦闘及び航空科部隊の運用等に関する教育(学科教育、野外・実技教育)を実施。他、航空管制、航空気象、航空写真教育も行う。将来の飛行隊長あるいは飛行隊等の幕僚として求められる資質・識能を付与して陸上航空を担う優秀な人材を育成している。



(野外教育)BOC教育



(現地戦術教育)AOC教育



(在日米軍の航空学校研修対応)POC教育

第2教育部

幹部学生に対しヘリコプターの基本操縦教育を実施。ここを卒業した時にウィングマークが与えられ、全国の飛行部隊に巣立っていく。他、機種転換教育及び計器検定官養成教育を実施。



学生の初ソロ飛行



飛行前ブリーフィング

宇都宮校

明野では幹部航空操縦課程(POC)が実施されているが、宇都宮校では陸曹航空操縦課程(FEC)が実施されている。他、固定翼課程(LRC)や計器検定官課程(EOC)も実施している。



LRC教育

霞ヶ浦校

年間約400名に対する整備教育を実施し、陸上航空全ての幹部及び陸曹航空機・通信機器整備員を養成している。また、幹部航空操縦課程(POC)前期の教育も実施している(平成25年度まで)。



エンジン整備教育



POC前期操縦教育

新操縦教育体系の概要

今迄FECは、練習ヘリコプター(OH-6D)から実用機(OH-6D及びUH-1J)へ、その後機種毎のH操縦技能証明取得、飛行部隊での練成訓練(部隊が実施する機種転換操縦集合教育を含む)、幹部候補生学校(OCS)、幹部初級課程(BOC)、そしてやっとアドバンス教育を受けることが出来た。

POCでも、練習機教育、実用機教育、H操縦技能証明取得、航空操縦特技取得、部隊練成、アドバンス教育となっていた。

平成25年度からは、新操縦教育体系として、練習機教育のあとの実用機教育の中にアドバンス教育を取り込むことになったため、早期戦力化による航空操縦士の有効期間が拡大する。また、それぞれの機種のスペシャリスト養成にもなり、機種別の運用に精通した指揮官を育成することが可能になった。

新練習機ヘリコプター TH-480B

- ★乗員2(P)+2
- ★全幅2.4m ★全長11.3m
- ★全高3m ★ローター直径9.8m
- ★製作米国エンストローム社 エンジン(名称250-C20W出力420SH 製作米国ロールスロイス社)
- ★巡航速度約201km/h
- ★航続距離約633km



新練習ヘリコプターTH-480Bが並ぶ明野飛行場